

愛する地域を創るのは

福島県いわき市立小名浜第一中学校

三年 飯田りな

東日本大震災から五年が経った。外を見れば、震災前と変わらない風景が広がっている。今の生活があるのは、多くの人々の努力のおかげだと思う。感謝の言葉が尽きない。

しかし、私はあの震災後、まだ復興できていないところがあると思う。それは、コミュニティの分裂だ。私が住んでいる福島県いわき市は、被災者が被災者を受け入れている。震災という経験を共有しつつも、それぞれが抱える背景や思いが大きく異なる人々と共に暮らすことが求められている。同じく被災しているのにも関わらず、元々いわきに住んでいた人和其他の地域から避難してきた人との間に溝が生じていると感じる。以前、私と母が買い物でレジに並んでいると、「なんで俺たち避難民が待たなきゃいけないんだよ。」と怒鳴られたことがある。また、私の近所の方が「新しく引っ越してきた人、避難してきてみたい。どこへ行っても混んでるし、嫌ね。」と言っていた。なぜ、同じ地域に住む者同士で、こんなにもいがみ合い、偏見や差別の目を持つのだろうか。私は、震災という悲しい過去を共有しているからこそ、手を取り合い未来を創り上げていくべきだと考えている。そして、何より私たちのような地

域の未来を担う、若者がもつと地域の一員であるという意識を持つことが必要だ。この意識があるかないかで、大きく地域の見方や考え方が変わってくると思う。私はそれを体感した一人だ。

私は、「いわき青少年ボランティアOne Step」というボランティア団体の一員だ。いわきの復興、すてきなまちづくりに向け、活動している。自主性を第一に、制服を脱ぎ捨て、中高生や大学生、社会人など幅広い年齢層で構成されている。ボランティアなどを通じて自分たちが楽しみながら、地域のニーズに応え、そこから地域とのつながりと愛着が生まれるように組織された団体だ。私たちのような若者が動くことで地域に関心を持つ人を増やし、そんな人たちが実際に活動できる場所を作っていくことが目的だ。これまで主に、地域の交流の場である公民館で若者の力で地域を盛り上げることを目的としたイベント企画を行ったり、常総市で起きた河川氾濫後のボランティア活動に参加したりしてきた。また、熊本地震救済募金活動なども行ってきた。活動をする上で、うまくいかないことや失敗もあった。しかし、今ではそれが私の自信となり、原動力ともなっている。

私はこの団体に入って多くの人、様々な考えに触れた。そして何より、この愛すべき地域の未来を創り上げる一人であることに気づききっかけをもらった。私はあの震災が起きてから、自分たちの地域や未来について考えたことなど一度もなかった。長く住んでいるのにも関わらず、地域についての良いところや課題など、自分の無知さにショックを受けた。私たちの身の周りには、たくさん知らないことがある。まずは、自分の地域について知る必要があるのではないかと思う。私は、今起きているコミュニティの分裂のかけ橋となるのは、まさに私のよう

な若者だと確信している。柔軟な発想や考え方、周囲にとらわれず、行動力のある若者の力で未来を切り開くことができるのではないかと考えている。

震災後、多くの人が心に傷を負った。被害を受けた人はもちろん、その他大勢の人が、毎日に不安を感じ、生きることへの希望さえも失ったのではないか。これは、県の調査でも実証されていて、震災前よりも精神的疾患を患う人が増えていることが分かっている。また、医療従事者の不足も明らかになっている。私はこれを知って、地域の人たちの心を元気にしていきたい、少しでも地域に貢献したいという思いを強くした。私は将来、心理カウンセラーになりたいと考えている。そして、将来的には、人と人をつなぐかけ橋のような存在として、コミュニティの輪を広めていくことが目標だ。その第一歩として、多くの人へ気づきや行動を起こすきっかけを与えられるように、自分の経験や考えを発信し続けている。私たちの愛すべき地域、いわき市の発展と人々の笑顔であふれる未来を目指して。

作文を書くに当たって

震災の記憶が失われつつある今、より多くの人に少しでも関心を持ってほしいと思い、私が見た震災後のまちや人々についての作文を書いた。私はこれを読む人の心に何かを与えられたらうれしい。みなさん、周囲にとらわれず一歩踏み出してはどうだろうか。その一歩が誰かに変化を与え、未来に希望をもたらすのではないかと考えている。